

地元の人でする

イベントって すごいですね

高橋 徹郎さん

わないと…という雰囲気がある」と
言われます。

ですからクラフトフェスなどい
ろいろなお店が並ぶと、見に行きやす
いし、気に入った工房を見つけやすい。
こういったイベントを増やしてほし
いと言われます。

イベントの開催は、時間と労力が必
要です。実行委員は何か月も前から準
備し、イベントが終わり一息ついたら、
来年の話という具合で、本業に費やす
時間も削られます。

市長 ● 行政がお手伝いできることが
あれば、何でもします。

今年中に志摩庁舎に、アーティスト



の作品を展示・販売できるよう計画し
ています。

高橋 ● 私がクラフトフェスを見ていて
スゴイと思うのは、計画から、出店まで
すべてを地元糸島の人がやっているこ
と。

こういった地元の人が計画・実行す
るようなイベントがもつてきたらいい
ですね。

糸島の資源を生かし、人に優しく夢のある、持続可能な都市

10年後 の糸島

働く場もある、バランスある発展

最先端で人に優しいまち

高橋 ● 10年後の糸島の姿はこうあるべ

いと思います。そうすれば、お客さん
も増えるし、アーティストの数ももつ
と増えると思います。

前原駅周辺の活性化も必要だと思
います。今の景観を保ったまま、商店
街がにぎやかになればいいですね。特
に、駅前の糸島の案内や情報力が弱い
と感じています。

駅を降りた人が情報を検索し、そこ
から糸島を探索できる流れになれば
いいですね。これは10年後と言わず、
今からでもできると思います。

バランスの取れた発展

伊藤 ● 糸島というまちを語るとき「ど
こか1つが飛び抜けて良いというの
ではなく、「九州大学がある学研都市
エリア、芸術エリア、農業エリア、居住



水素の観点から言うと、私の頭には
水素カーが走り、エネファームのよう
な設備がたくさんあるイメージですが、
将来そうなりますかね。

菊川 ● そうありがたいです。そのために
も、水素関連の企業を誘致していきた
いですね。

世界中から企業が進出してくる可
能性もありますし、それほど、糸島に
は水素の情報があり、実力もあります。

市長 ● 糸島には水素と同じくらいす
ごい資源として、半導体の研究があり
ます。これも、世界の研究拠点になるだ
ろうと、国からのお墨付きがあります。

半導体の初代ワールドチャンピオ
ンはアメリカ、次は日本でしたが、今で
は韓国と台湾に地位を奪われました。

それを日本に奪い返す千載一遇の
チャンス握る施設が、糸島にできる
のです。ですから半導体に関する企業
の集積にも期待できます。

高橋 ● 水素と半導体は今後、飛躍的に
伸びていくでしょう。では農業の視点
から平野さんはどのように思いますか。

平野 ● 地元の小学生に、将来につい

情報力が強まれば

駅前周辺も

にぎやかに

なると思います

茂渡 ゆう子さん

つ糸島であって欲しいと思います。

高橋 ● 平野さんがされる「胡道」(胡蝶
蘭を中心とした根付きの生け花)は、ヨ
ーロッパでも認知され始めているとの
ことですが、これは平野さんが始めら
れたのですか。

平野 ● そうです。胡道の始まりは愛知
県西尾市ですが、それを糸島市や直方
市、西尾市の仲間たちで研究していま
す。そしてこの活動を応援してくれる
貿易会社があり、ヨーロッパに持って
いくことになったのです。

農業の中にもそういった可能性を
秘めたものがたくさんあると思いま
す。実際に、イチゴなどの農産物を海
外に輸出する人もいます。

日本の生産技術を海外に持ち出せ
たら、農業ももっと面白くなると思
います。

市長 ● 少子高齢化の問題について、糸

聞くと「僕はおそらく糸島を出て行っ
て仕事をすると思います」と返ってき
ました。

これでは、糸島は高齢化します。10
年後のために、市外に出て行く人を引
き留められる糸島、高齢者を応援でき
るシステムづくりが必要です。

以前「市外の子ども夫婦が2週間分
の冷凍食品を、糸島市内の高齢の親の
冷凍庫に入れて帰る」という寂しい話
を聞きました。食材豊富な糸島です。

独居老人などに、食事を提供するシス
テムができれば、素敵だと思います。

また、夢を持った若者や事業を始め
たい人が、みんなの前でプレゼンを行
い、投資や情報提供ができる場を設け
られたらいいと思います。

高橋 ● アーティストの面から見るとど
うでしょうか。

茂渡 ● 工房関連の大きなイベントと
して、クラフトフェスがありますが、
小さなイベントが頻繁にあってもい



島で育った若者を地域に留まらせる
には、近くに働く場所が必要です。親
と同じ学校に子どもが通う。そのよう
な地域が望ましいと思います。

農業については、農家のほとんどが
高齢化しており、後継者がいない状況
です。これでは農業は持ちません。い
かに、農業に新規参入するか、若い後
継者をつくるかが今後の課題だと思
います。そうでなければ、この豊かな
田園風景はなくなるでしょう。

高橋 ● 地元に住む人が農家を支え、そ
れが田園風景を守ることになる。そう
いった考え方が浸透していけばいいで
すね。

資源を生かしたまちづくり

市長 ● 今回の座談会で、参考にさせて
いただいた意見が多く出ました。

糸島の資源はみなさんがおっしゃっ
たように、自然や景観はもちろん、知
の拠点である九州大学、半導体、水素
が来たことによる関連企業の集積、ア
ーティスト、農業が生み出す果物や花、
野菜、畜産物、そして水産物、また福岡
市に近く交通アクセスも良いことな
ど。

これらを活用しながら、持続可能な
糸島市をつくるため、全力投球してい
きます。糸島の変えていいところ、い
けないところを意識しながら、市の
経営をやっていききたいと思っています。
今日はありがとうございました。



糸島の資源を生かし

持続可能な

まちづくり

全力投球します

松本 嶺男市長